

令和7年度 東京都内湾水生生物調査 6月稚魚調査 速報

●実施状況

令和7年6月9日に稚魚調査を実施した。天気は概ね曇りで、気温は22.0～24.2℃であった。調査地点の風は各地点ともに南西で、風速は2.5～3.2mであった。調査当日は大潮で、干潮は9時49分、満潮は16時52分であった(気象庁のデータ)。お台場海浜公園及び森ヶ崎の鼻では赤潮が発生している状況であった。

全調査地点においてマハゼ、ビリンゴ等のハゼ科魚類及びボラが多く出現した。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
調査時刻	10:40-11:55	8:50-10:15	12:20-14:25
水温(℃)	23.2	22.5	24.8
塩分(ー)	18.5	15.6	0.8
透視度(cm)	16.5	24.5	11.5
DO(mg/L)	15.8	9.5	8.0
DO飽和度(%)	205.6	120.7	100.0
波浪(m)	0.2	0.1	0.2
pH(ー)	8.6	7.6	8.1
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考	なし	なし	なし

●主な出現種等(速報のため種名は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
魚類 (多い順*)	マハゼ(c)	ビリンゴ(c)	ビリンゴ(c)
	ビリンゴ(c)	マハゼ(c)	マハゼ(c)
	ボラ(c)	エドハゼ(+)	エドハゼ(c)
	スズキ(r)	ボラ(+)	ボラ(+)
			アシシロハゼ(r)
魚類以外	なし	エビジャコ属(r)	シラタエビ(r)
			エビジャコ属(r)
備考	他にクロダイが採集された。	他に、フグ科、アミ科が採集された。	大量の植物片が網に混入した。

*)表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000個体以上、m:100～1000個体未満、c:20～100個体未満、+:5～20個体未満、r:5個体未満

お台場海浜公園 採取試料



水際から数mで急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

主な出現種など ※写真のスケール 1 目盛り:1mm

マハゼ

河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。

ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水域～淡水域に移動する。産卵期は早春。

スズキ

湾奥から外湾にかけて様々な場所で見られる。仔魚は沖での浮遊生活後に沿岸に向けて接岸回遊をする。内湾の干潟域や人工海浜でハゼ科の稚魚や甲殻類等を食べ、急速に成長する。

ボラ

東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。スズキと同様、成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→ドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。

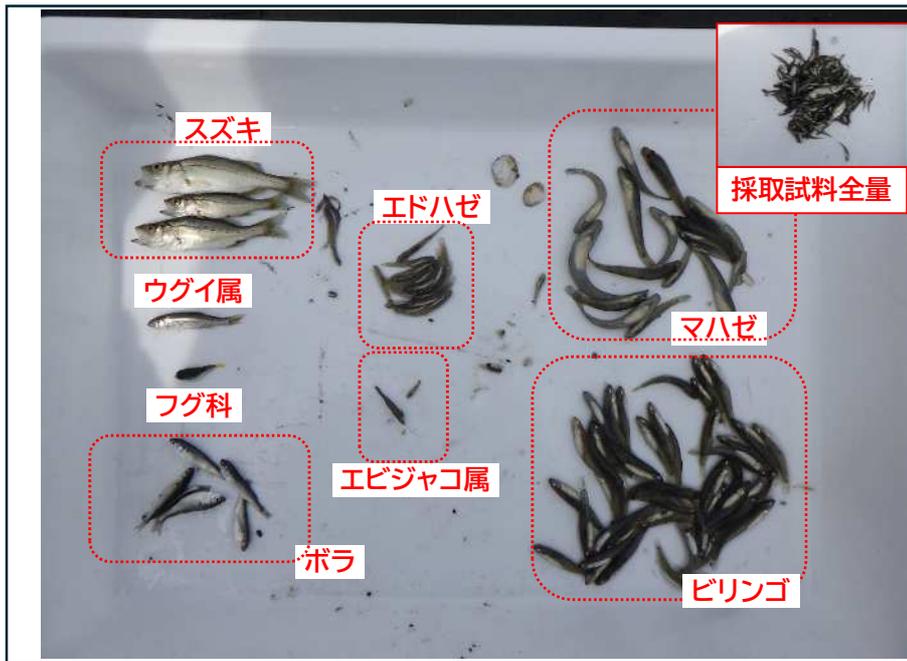
チチブ属

ずんぐりとしたハゼ科の仲間。雑食性で、転石やカキ殻の間等に多く見られる。東京湾では 6～9 月が産卵期となり、干潟域や人工海浜等で孵化した大量の仔魚が浮遊生活を送る。

クロダイ

東京湾全域に出現。稚魚は春先に、幼魚期は夏～秋に内湾や沿岸域で定着し、秋冬には内湾周辺の深場で越冬をする。産卵期には浅い砂地のある入江や湾内外の磯場にて集団で産卵する。

森ヶ崎の鼻 採取試料



羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

主な出現種など ※写真のスケール 1 目盛り:1mm



河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。



マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水域～淡水域に移動する。産卵期は早春。



湾奥の干潟域に生息し、主に小型甲殻類を捕食する。成長するとアナジャコの巣穴を隠れ家として利用するため、成長した個体は小型地引網で採集されにくい。



東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。スズキと同様、成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→ドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。



東京湾内に出現するウグイ属としてはマルタとウグイがあげられる。幼魚は判別が難しい。産卵期の成魚は赤黒の鮮やかな婚姻色が現れる。体表の黒線がマルタは1本、ウグイは2本であることで区別できる。



湾奥から外湾にかけて様々な場所で見られる。仔魚は沖での浮遊生活後に沿岸に向けて接岸回遊をする。内湾の干潟域や人工海浜でハゼ科の稚魚や甲殻類等を食べ、急速に成長する。

葛西人工渚 採取試料



調査地点の様子



調査の様子

東京湾奥にある広大な人工干潟東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

主な出現種など ※写真のスケール 1 目盛り:1mm



マハゼ

河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。



ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水域～淡水域に移動する。産卵期は早春。



エドハゼ

湾奥の干潟域に生息し、主に小型甲殻類を捕食する。成長するとアナジャコの巣穴を隠れ家として利用するため、成長した個体は小型地引網で採集されにくい。



アシシロハゼ

鱗が粗く、体側にゴマ模様がある。成熟した個体の体側には白い横縞が現れる。初夏から秋にかけて、河口付近の石や貝殻の下面に産卵する。成魚は春の干潟に多く出現し、マハゼの稚魚等を食べる



ボラ

東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。スズキと同様、成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。



ニゴイ

大きな河川の中下流部に生息する淡水魚である。今回は現地の塩分濃度が低かったため、侵入してきたと思われる。産卵は初夏で河川の中流域で行われる